

《大阪大学せんばアカデミー》世相を映すハンガリーの民俗舞踊

「文化芸能・国際交流」の拠点であり、大阪大学との連携企画が好評の《せんばアカデミー》。今後の活躍が楽しみな若手研究者をお迎えし、社会の変化に呼応する、地域文化のあり方について、考えます。2024年3月開通「箕面船場阪大前駅」すぐ、箕面船場の文化施設にぜひご来館ください。

- 定員 45名
- 場所 船場生涯学習センター 5階 会議室4AB
- 持ち物 筆記用具



©Yasuhiro Ikenaga

【講師】松井拓史さん

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。現在、日本学術振興会特別研究員 PD。第二次大戦後にソ連および旧東欧地域で設立された民俗舞踊団について研究している。

全講座受講でお得になります

★全3回通しでの受講料 3,000円 ※申込締切：9月27日(金)

- ・申し込みの際に「全講座受講」とお申し出ください。
- ・全講座受講は、全回出席を原則とします。また代理のかたの受講はできません。
- ・初回講座受付時に一括支払い。一旦支払われた受講料は返金できませんのでご了承ください。

【個別受講に関して】 ※個別受講申込開始：9月28日(土)～(先着順)

- ・1講座ずつの個別受講可(受講料：1講座につき1,600円)。
- ・**全講座受講の申込者で定員に達した場合、個別受講の申込みはごさいません。**
- ・本講座は連続講座を前提としています。予めご了承ください。

講座番号・講座名・内容	日時	
①「社会主義と民俗舞踊」 第二次大戦後の東欧諸国では、民俗舞踊を舞台用にアレンジして上演するプロフェッショナルな舞踊団が多数結成されました。そのモデルとなったソ連の舞踊団、そしてハンガリーの舞踊団を取り上げ、政治と民俗舞踊がどのような関係にあったのかお話しします。	11月12日(火)	
②「鑑賞型から参加型へ」 1970年代以降のハンガリーでは、「ダンスハウス」と呼ばれる、一般の人々が参加する民俗舞踊クラブのような催しが数多く開催されるようになります。誰が、どのような目的でダンスハウスを企画し、人々はなぜそこへ足を運ぶのか、いくつかの角度から考えてみます。	11月19日(火)	午後2時30分 ～午後4時
③「民俗舞踊の現在」 ハンガリーでは1989年に社会主義体制が終わりを迎え、それまでとは異なる社会のあり方が模索されるようになります。こうした新しい社会や価値観に対応するようにして、民俗舞踊のパフォーマンスのあり方も変化を遂げていくこととなります。現代において民俗舞踊とはどうあるべきか／あることができるのか、考えてみようと思います。	11月26日(火)	

開催場所【船場生涯学習センター】

〒562-0035 箕面市船場東3-10-1

TEL：072-730-5333 / mail：senba@minoh-bunka.com

開館時間：午前9時から午後10時まで

休館日：月曜日(休日を除く。)

- 交通：◆ 北大阪急行電鉄「箕面船場阪大前駅」下車すぐ
◆ 阪急バス「新船場北橋」「新船場南橋」「箕面船場阪大前駅」または、「船場団地」下車(箕面、千里中央等各方面から)

※ 車などでお越しの場合は箕面船場駐車場(自動車116台、自動二輪車86台/有料)・箕面船場第一駐輪場(自転車950台、原付495台/有料)をご利用ください。

